

動物（詳細版）

海辺の生き物：

伊勢志摩国立公園の海岸線には、岩礁帯、海藻の茂る藻場など、干潮が様々な生物の生息地を提供しています。

波打ち際から海底まで続く岩礁帯は、岩の隙間にイセエビやアワビなど様々な生物が住み着いています。その藻場は多くの海の生き物の隠れ場所・栄養源になっており、こうした場所を豊かな漁場にしています。

潮間帯では、岩場の干潟に、驚くような世界を見つけることができます。タイドプールに住んでいるのは、小さな魚やイソギンチャクやカニ、ヒトデ、ウニのほか、巻き貝やウミウシの仲間、そのほかの小さな海の生き物を見つけることが出来ます。伊勢志摩国立公園では、鳥羽市の安楽島や志摩市の塩鹿浜、南伊勢町の阿曽浦など多くの場所で、広いタイドプールが見られます。

伊勢湾や太平洋に面した静かな砂浜では、夏の夜になるとアカウミガメが産卵のために上陸します。アカウミガメの保護に地域住民もかかわっています。

夏の夜に波が打ち寄せる砂浜では、小さなプランクトンの仲間であるウミホタルの発する光が、この世ならぬ美しさを作り出します。

鳥類：

魚や甲殻類などを餌とする海鳥の仲間は海岸の近くで見ることができます。カワウは一年中見ることができます。この黒い鳥たちは、伊勢湾や大きな川の河口などでは大群で見られることがあり、数百羽が群れ飛ぶ姿は壮観です。

ミサゴは、伊勢志摩では冬になるとよく見られます。海の上を飛び回って魚をさがし、飛び込んでいて魚を鋭い足で捕まえます。

シロチドリは、砂浜で巣を作ります。彼らの卵は、海岸の砂や小石とそっくりです。砂浜を走り回ったり急に方向転換をしたりして、昆虫や小さなカニを捕まえます。

船に乗って海上に出ると、ウミネコなどカモメの仲間を見るでしょう。カモメは鳥羽市の鳥にも指定されています。鳥羽湾でカモメの仲間が観光船の後をついて飛び回る姿を見れば、それが分かります。

昆虫：

さまざまな環境のある伊勢志摩国立公園では、特定の生育環境にしか見られない昆虫が生息しています。

砂浜では打ち上がった海藻などを餌にするガムシやハネカクシの仲間などが生息しています。河口周辺や干潟、海跡湖などの汽水域では、塩分に耐性を持つイトトンボの仲間であるヒメイトトンボや、小さなゲンゴロウなどが希少な昆虫が生息しています。

南伊勢の湿地では世界的にも最も小さな部類に属するハッチョウトンボを含む 50 種以上のトンボが記録されています。

ほ乳類：

伊勢志摩国立公園の山間地では、シカやイノシシ、ニホンザルなどが多く生息しており、一部では農作物に対する獣害駆除の対象にもなっています。人が持続可能な自然の活用のためにエコシステムを管理している里山にはタヌキやキツネ、ウサギ、アナグマなどが見られます。

伊勢湾や鳥羽湾では、スナメリが多く生息しており、船からや海岸から見られることがあります。